

自衛隊神奈川地方協力本部

潜水艦見学ツアー

カレッジ防衛モニター 榎木 達志

潜水艦の前で記念撮影
(本人は後列右から3番目)

6月20日(土)0945、私達カレッジ防衛モニターを含む潜水艦見学ツアー参加者が、横須賀ベース入口に到着した。身分証明証を提示し、許可証代わりのシールを服に貼付け、注意事項が通達された。ここから先は、日本であって日本でない。アメリカ合衆国の法律が適用される場所である。海上自衛隊の施設内で、横須賀ベースと、横須賀ベースを母港とする第2潜水隊群についての説明を受ける。

横須賀ベース内にある、第1ドックは、近代的ドックとして最古の物であるが、ベースの中にある為に文化遺産に出来ないというのは、とても残念だ。いつの日か日本に返還され、文化遺産となる事を願う。そして、潜水艦救難艦の存在は潜水艦乗りにとって最後の砦であり、それによって士気が向上することは間違いないだろう。また、これまで潜水艦救難艦の「実戦」出動回数が0というのは、海上自衛隊の練度の高さを表しているだろう。

潜水艦内の見学は驚きの連続だった。後部の垂直ラッタルを降りて機関室へ入ると、そこは人がすれ違うのがやっとという程の狭い通路だった。計器や配管などがすぐ側を通っており、誤って何かしてしまわないかとヒヤヒヤし、そして多くの隊員が敬礼で肘をぶつけたに違いないとも思った。全てをお伝えできず残念だが、案内して下さった神奈川地方協力本部と第2潜水隊群の皆様への感謝の意で、拙文を終えさせていただきます。

この国における潜水艦

カレッジ防衛モニター 神田 祥佳



第2潜水隊群での概要説明

6月20日(土)、私は生まれて初めて、潜水艦を見ました。潜水艦そのものは認識していても、それがどのようなものなのか、また、どうやって海中に潜ることができるのかなど、実物を見るまでは夢の世界のもののように感じていました。

実際、潜水艦がどのような使用目的で建造され、現在の日本の防衛において、どのような効果を発揮しているかを、第2潜水隊群の方にわかりやすく説明していただいた。その後の潜水艦の内部見学においても、どの機械がどう作用するのかを頭に入れて見学できたことで、より潜水艦見学が実践的なものを感じられました。

潜水艦というものは、あまり表舞台に出てこないことが多く、私にとって他の海自艦よりもなじみが薄いように思いましたが、実際にはその「表舞台に出ない」ことが重要であるということも教わりました。この日本の海域のどこかに、潜水艦が潜んでいるという脅威こそが潜水艦の威力であり、他の艦艇には見られない魅力でもあるなと感じました。事実、内部見学においても、潜水艦の艦名や姿を映した写真をSNSにアップしないでくださいと言われた時に、いかに潜水艦の秘匿性こそが、この国を守る要であるかを実感させていただきました。

このような貴重な経験をさせていただいたことは、私の人生においても非常に価値の高い時間であり、カレッジ防衛モニターとして、より一層自衛隊の魅力伝えていきたいと感じた一日でした。

潜水艦見学ツアーに参加して

カレッジ防衛モニター 永井 健太



潜水艦の前にて(左が本人)

6月20日(土)、神奈川地方協力本部潜水艦見学ツアーに参加し、海上自衛隊第2潜水隊群を見学しました。今回の潜水艦見学ツアーが第4期カレッジ防衛モニターとしての最初の活動であり、期待感とともに緊張感がありました。

初めに、第2潜水隊群の概要説明を受け、その後潜水艦の見学をしました。概要説明では、潜水艦の役割とその重要性について学びました。国土を海に囲まれている日本にとって、海の防衛は必要不可欠です。その中で、潜水艦はその最大の強みである隠密性を活かし、防衛の最前線を担っています。いつどこに潜水艦がいるかわからない状況を保つことにより、容易に攻め入ることを防ぐ抑止力となることを学びました。また、潜水艦の見学では、艦内が想像以上に狭く感じました。そのため、艦内での生活の想像がつかせませんでした。が、隊員の方とお話をする中で、艦内の普段の生活を知ることができました。潜水艦という特殊な装備のため、機密情報も多く、詳細を伺えないことも多々ありましたが、隊員の方の丁寧な説明もあり、潜水艦の必要性と重要性を学びました。

今回の潜水艦見学ツアーを通して、私は国防における潜水艦の重要性を学ぶとともに、その活動について理解を深めることができました。今後も、防衛モニターの活動を通して、国防の現状とその役割について学んでいきたいと思えます。